

植物と人々の博物館メールマガジン

第 87 号 2022 年 5 月 1 日発行

2023 年は国際雑穀年



新緑に、ハナミズキやツツジの白花・赤花が浮かび上がるように映えています。花の移ろいはあまりに早いです。自宅の坪庭のツルバラとクレマチスが重ねて咲き競い、例年、通りすがりの多くの人に賞賛されています。待ち受けにしてくださっている方もあります。これだけでも、うれしいです。エディブル・ウェイのスナップエンドウはたくさん生り、バジルも芽が出てきました。このような平穏が幸せな日常なのでしょう。

素のままの美しい花々、物事、作品、言葉、その中に真情を見いだしては称賛し、日々の暮らしの中で共感し、結び、希望を求めて励まし合いたいです。ぜひ友の会会員になってくださり、ご一緒に植物をめぐる生物文化多様性、在来品種の保全のための調査研究や普及活動にご参加ください。

1. 植物と人々の博物館

友の会会員になってくださるとうれしいです。

○報告

- 1) 東京学芸大学環境教育センターに 1980 年代の記録写真を提供しました。
- 2) 植物標本の整理をしました。
- 3) 西川文庫をインド大使館にチャンドラ・ボース記念図書室が開設されたら寄贈する旨、提案しました。

○予定

- 1) **開館・作業予定日**：5 月下旬に開館します。
- 2) **民族植物学ノオト第 16 号の原稿**は 12 月を締め切りにして募集します。ご寄稿ください。第 15 号までのすべての記事 pdf は植物と人々の博物館ホームページ（下記：ミュージアムグッズの項）で読めます。 <http://www.ppmusee.org/goods.html>
- 3) **電子書籍**：植物と人々の博物館ホームページ（ミュージアムグッズ）に電子書籍（既刊）の項で読めます。現在は一部公開中の雑穀の民族学関係の書籍、選集 III『日本雑穀のむら』、選集 IV『雑穀の民族植物学—インド亜大陸の農山村から』、の読み書きを再開し、順次公開します。これら 4 冊のまとめとして選集 VI “Essentials of Ethnobotany” の一部公開を進めます。『山村農人降矢静夫対談集』（降矢静夫・木俣美樹男）は、なかなかテープ起こしが進みませんが、近日中に公開します。これらは 20 世紀の優れた篤農の書です。クリンネス（木俣美樹男 2022）は偶数月に植物の香りを話題に連載続けます。
- 4) **森とむらの図書室への寄贈など**

「お米の勉強会会報」「クリンネス」「現代農業」「うかたま」「地域」「環境と文明」。あ

りがとうございます。

5) 植物と人々の博物館基金 PPM Foundation

大口寄附ではなく、クラウド・ファンディングや助成・補助よりも、できるだけローテクで貯金箱に眠っている 1 円玉からする任意募金を以前から考えていました。植物と人々の博物館の維持のためにご協力を、よろしくお願ひします。自然文化誌研究会に基金費目を設けました。費目指定でご寄付をいただけるとありがたいです。

郵便振込口座は下記です。講座名義：特定非営利活動法人自然文化誌研究会
口座番号：00100-2-665768

2. 環境学習市民連合大学 Civic United University for Environmental Studies

セミナーの動画や予習・復習資料 pdf および 2022 年の予定など、ご案内は下記のサイトにあります。 <http://www.millettimplic.net/university/civicuues.html>

多くの世代が信頼の下に、ともに話し合い、深く考えて環境問題の解決を広く探りたいです。世代間の信頼を築きたいです。セミナー座談会への参加希望やご質問などは下記にメールください。参加申込みをしてくださった方には当日の要綱、交通案内、zoom の URL などをメールでお伝えします。

申込み連絡先：kibi20kijin@yahoo.co.jp 木俣美樹男（企画室事務担当）

環境学習市民連合大学は環境学習の理論と実践を普及啓発する目的で、ウェブサイトを作っています。環境学習・保全 NP04 団体と 3 個人から出発した市民大学です。主旨は、市民社会の自由、平等、友愛を基本原則として、自らが学び合う環境学習市民連合大学をリンク・ページとして、インター・ネット上で運営することです。ヨーロッパの 12 世紀ルネサンスの先駆けとなった原初の大学は学び合いたい人々の学習者組合でした。都市を旅しながら教師も学生も互いに学びの自由を守護し合い、共助していました。入学資格、試験、授業料、卒業資格はありません。どなたでも、学び合いたい人々が自由に集まるのです。このような考え方が、うれしいことに日本版気候若者会議からも示されています。<https://youthclimateconference.jp/about>

今この時に、人生における学ぶ意味について改めて考え直し、再びルネサンスを日本から起こしたいです。この市民大学は任意無償提供の学習素材、任意寄付で維持します。この提案にご賛同の方々の参加（リンクなど）を広く求めます。よろしくご連絡をお願いします。最近の録画、話題資料メモは上記サイトにあります。

○予定

第 5 回自給農耕ゼミ（小金井）

日時：5 月 15 日（日）、14：00～16：00 一次案内は下記です。

<http://www.millettimplic.net/university/farmingkoganei/farmko5an.pdf>

場所：小金井市中町カエルハウスおよびオンライン（zoom）（定員：会場 15 名、オンライン 20 名）

話題：雑穀街道と FAO 世界農業遺産

話者：木俣美樹男（雑穀街道普及会）、（話題 30 分、座談会 90 分）。

要旨：日本における稲作以前、雑穀栽培の伝播、絶滅寸前の栽培現況、遺存的栽培地を結ぶ雑穀街道を FAO 世界農業遺産に申請して、山村において生物文化多様性を現地保全する。自給農耕ゼミ（佐野川）の紹介。当日資料は配布します。

話題内容は次の予定です。

<http://www.milletimplic.net/university/farmingkoganei/farmko5lec.pdf>

それでも心が痛いことも多いです。「現代都市民の退行進化および食料と戦争」について、随想を書いてみました。

<http://www.milletimplic.net/university/farmingkoganei/evolvfoodwar.pdf>

協催：カエルハウス運営委員会、NPO 自然文化誌研究会／植物と人々の博物館／雑穀街道普及会

申込み連絡先： 042-316-1511（カエルハウス運営委員会）または

office@katayamakaoru.net 会場参加費は 300 円（お茶、資料代）。

申込者に詳細案内をお送りします。

第 8 回自給農耕ゼミ（佐野川）

在来雑穀の栽培法を学び、栽培者を増やして、絶滅寸前の栽培現況を改善する。遺存的栽培地を結ぶ雑穀街道を FAO 世界農業遺産に申請して、山村において生物文化多様性を現地保全する。一次案内は下記です。

<http://www.milletimplic.net/university/farmingkoganei/farmsklec8.pdf>

日時：5 月 22 日（日） 9：00～15：00 茶園の作業予定により日時変更あります。

場所：神奈川県相模原市緑区の旧佐野川村上岩 上野原駅からバス便あります。

話題：在来雑穀 6 種の播種のしかた。佐野川茶の管理作業の紹介。

雑穀栽培の基礎技能を学ぶ。畝立て、施肥（元肥）、播種の仕方を実習する。佐野川茶の管理作業を学ぶ。

話者：宮本透さん、木俣美樹男（雑穀街道普及会）

申込み連絡先：kibi20kijin@yahoo.co.jp 木俣美樹男（企画室事務担当）

申込者に詳細案内をお送りします。

第 7 回環境楽習会

日時：6 月 26 日（日）10：00 出発～12：30 解散 一次案内は下記です。

<http://www.milletimplic.net/university/pelcivicuu/pel7an1.pdf>

集合時間・場所：9：45、西武国分寺線／鷹の台駅。解散場所：JR 中央線／国分寺駅

プログラム：（定員：15 名） 資料代：200 円

野外巡検案内解説者：福田恵一さん（羽村第一中学校）

小金井とかかわりの深い玉川上水と恋ヶ窪分水、野川源流部の姿見の池を巡検し、水環境と暮らしの歴史を学ぶ。

申込み連絡先：kibi20kijin@yahoo.co.jp 木俣美樹男（企画室事務担当）

申込者に詳細案内をお送りします。

第 8 回環境楽習会

日時：8 月 28 日（日）10：30～12：00

場所：小金井市環境楽習館およびオンライン（定員：20 名、ZOOM：100 名）

話題：（仮題）市民大学の試み

話題提供者：深澤まどかさん（シブヤ大学）

シブヤ大学の活動から、市民大学の重要な役割と可能性を学ぶ。

申込み連絡先：kibi20kijin@yahoo.co.jp 木俣美樹男（企画室事務担当）

○報告

第 6 回環境楽習会

日時：4 月 24 日（日）10：30～12：00 15 名参加

場所：小金井市環境楽習館および ZOOM

話題：公園やみどりの価値や機能（30 分、座談会 60 分）。

話題提供者：佐藤留美さん（NPO birth バース）

東京都下の公園における指定管理者による、公園の活用実績が紹介され、とても優れた経営がなされていると思えました。毎日散歩している公園も含まれているので、実体からも納得できました。

3. 雑穀街道普及会：

FAO 世界農業遺産申請のために、雑穀街道協議会を設置するための、三年次企画を冊子に掲載しました。ご意見をいただければうれしいです。

○ 報告

1) 4 月 20 日に小菅村でエコミュージアム日本村／ミュージアム研究会の、亀井さん、木下さん、黒澤さんと打ち合わせをしました。小菅村村長にも改めて説明に伺うことにしています。

2) 雑穀街道普及会の冊子を作製、印刷し、関係者や関連団体、関心のある方に配布しています。ご住所をお知らせくだされば、必要部数を送ります。また、ウェブサイトにも掲載しました。この冊子は藤野駅横のふじのね、東京学芸大学環境教育研究センターにも置いてくださいました。

<http://www.milletimplic.net/milletworld/milletstrasse/ms22n2.pdf>

3) 自給農耕ゼミ（佐野川）：佐野川の宮本さんの畑で雑穀栽培講習会を再開します。上野原駅からバスがあります。環境学習市民連合大学と連携して行います。

雑穀栽培の手引きの配布：播種、栽培したい方に少しずつ差し上げます。栽培・加工・調理法など必要に応じてお伝えします。野菜などの家庭菜園作りも含めます。自家採種した雑穀種子は栽培してくださる方に差し上げますので、費用はいりませんから、メールください。簡単な方法は次のサイトにあります。

<http://www.milletimplic.net/weedlife/farmsklec8p.pdf>

4) 東京学芸大学創基 150 年記念の雑穀発泡酒クラフトの準備を続けます。自給農耕ゼミで栽培した雑穀とホップで藤野の醸造所に委託して醸す予定です。また、国際雑穀

年記念発泡酒としても良いかとも思います。

5) 下記ホームページに活動の現況や関連資料を順次更新していきます。

<http://www.millettimplic.net/milletworld/millstr.html>

なお、45年間、調査研究してきた『日本雑穀のむら』第3章関東地方・第4章関東山地で、雑穀街道地域の調査研究の成果（1974～2017）をまとめてあります。現在は第5章中部・北陸地方を整理しています。

<http://www.millettimplic.net/milletworld/milletn/jnmpilvil.html>

雑穀街道普及会の会員や賛同者になっていただければうれしいです。趣意書や会則など、「街道美味」は下記のホームページをご覧ください。会費や寄附は任意で、個人の意思を尊重し、あえて納入規定は設けていません。趣旨の賛同していただき、会員になっていただくようお願いしています。

遠くアフリカなどから極東にまで伝播してきて、縄文後晩期以降数千年、この島嶼に住む人々の命の糧であった数種の雑穀、日本における伝統的な雑穀栽培はいよいよ絶滅しそうな状況にあります。生きた文化財、雑穀や野菜の在来品種は種継をしなければ、死んでしまい、もう生き返らせません。生物文化の伝統的知識も継承されません。全国各地の伝統的雑穀栽培を継承する最後の篤農が90歳を超えようとしています。雑穀農耕文化複合は日本の山村が世界に誇る生きた文化財として、今を限りに絶滅させないように継承すべきです。雑穀街道をFAO世界農業遺産に登録申請する提案普及を続けます。広い心をもって、個人も地域社会も全国へ、さらに世界の起源の地にまで街道を繋げて行ってほしいです。2023年は国際雑穀年になります。どうぞご助力いただけますようお願いいたします。

4. 自然文化誌研究会

- 1) 本年の主な活動予定は下記ウェブサイトにあります。むらまつりキャンプ、こすげ冒険学校、まふゆのキャンプ、INCHまつりライブは開催予定でいます。
- 2) 4月26日のグリーン連合幹事会で入会承認がなされました。

5. ワノサト企画室

企画提案を関係団体に行っています。

6. 桂川・相模川流域協議会ほか

雑穀街道協議会準備会の賛同団体になっていただけるように、いくつかの農林業団体に検討をお願いしています。

~~~~~

### 植物と人々の博物館 (山梨県小菅村) : 館長 : 木下善晴、顧問研究員 ; 安孫子昭二

研究員 : 木俣美樹男 (東京、専任、担当運営委員)、西村俊 (石川、担当理事)、井村礼恵 (東京、担当運営委員)、川上香 (長野)、渡辺隆一 (長野)、Sofia M. Penabaz-Wiley (千葉)、伊能まゆ (ヴェトナム) ほか

公式 HP : 植物と人々の博物館 <http://www.ppmusee.org/>

**雑穀街道普及会** <http://www.milletimplic.net/milletworld/millstr.html>

事務担当幹事 メールマガジン発行：木俣美樹男 [kibi20kijin@yahoo.co.jp](mailto:kibi20kijin@yahoo.co.jp)

栽培担当幹事：宮本透

民族植物学関係 HP:生き物の文明への黙示録 <http://www.milletimplic.net/>

[エコミュージアム日本村](#) / [ミュージーズ研究会](#) / [トランジション小菅](#) (山梨県小菅村) :

代表 亀井雄次 (山梨小菅村)

[自然文化誌研究会](#) : 代表 中込卓男 (東京)、副代表 中込貴芳 (東京)、小川泰彦 (埼玉)

<http://www2.plala.or.jp/npo-inch/>

事務局長：黒澤友彦 (山梨県小菅村) [npo-inch@wine.plala.or.jp](mailto:npo-inch@wine.plala.or.jp)

[環境学習市民連合大学](#) <http://www.milletimplic.net/university/civicuues.html>

企画室事務担当：木俣美樹男 [kibi20kijin@yahoo.co.jp](mailto:kibi20kijin@yahoo.co.jp)

~~~~~

写真





左上から右下に；満開のフデリンドウ、カラスムギ雑草、学童保育所の畑、市内の農地、坪庭のバラとクレマチス、ハケ下のムラサキハナナ。